

## 早稲田大学 社会科学部 日本史 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	大問数4題、小問数40問。すべて選択問題で、その内訳は正誤37問・語句選択2問・組合せ1問。昨年度、正誤問題が33個に増加したが、今年度は37個にまでなった。昨年度13問だった2つ選ぶ形式の問題が今年度は25問に急増した。出題形式は、2016年度まで古代、中世、近世、近代2題、戦後の5題がパターンだったが、昨年、第Ⅰ～Ⅲ問がテーマ史、第Ⅳ問が近現代(農業)となり、今年度は4題とも全時代にわたるテーマ史となった。原始からは2問、戦後からは5問出された。分野別では例年、半分为政治史だったが、今年度は政治史の割合はさほど高くなり、半分为社会経済史となり、文化史・外交史からも出された。史料は1問のみ。全体的な難易度は例年やや難であるが、今年度はさらに難化した。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	古代～戦後の印刷・出版の歴史 <史料>	問1:ニが正しい。孝謙上皇の時期=淳仁天皇の時期のものを選べばよい。問2:やや難。イが正しい。ロ「朝鮮」ではなく明、ハ「出兵し」ていない、ニ「家光」ではなく家康、ホは講和成立1605年、使節来日1607年なので「講和成立前」ではない。問3:ニが誤り。「美濃」ではなく播磨。問4:ハが正しい。林子平の『海国兵談』である。問5:ホが誤り。「寛政の改革」ではなく天保の改革であるが、この判別は難しいので消去法で解こう。問6:ホが正しい。最初の日刊紙は『横浜毎日新聞』。問7:やや難。ハ・ニが誤り。ハ「自然主義」ではなくロマン主義、ニ「与謝野晶子」ではなく与謝野鉄幹。問8:ホが誤り。「新聞『日本』」ではなく雑誌『太陽』。問9:ロが誤り。「大内兵衛」ではなく矢内原忠雄。問10:難問。イ・ハが誤り。イは検閲の対象になった、ハ「復刊」ではなく創刊。	やや難
Ⅱ	古代～戦後の通貨・貨幣制度	問1:やや難。ニ・ホが誤り。ニは全国各地で出土している、ホは調の貢納にも用いられた。問2:やや難。ハ・ニが誤り。ハは永仁の徳政令に限った説明、ニ「2年後」ではなく翌年。問3:やや難。イ・ホが誤り。イは明銭とともに宋銭も使われている、ホ「割符」は為替の際用いられる手形のこと。問4:イ・ハが誤り。イは有力な両替商は公金の出納・為替・貸付も行った、ハ「丁銀」は「計数貨幣」ではなく秤量貨幣。問5:イ・ニが誤り。イ「固定化し」ていない、ニ「正徳小判」ではなく元禄小判。問6:やや難。イ・ホが誤り。イ「金貨」ではなく銀貨、「金含有率を引き下げた」ではなく金含有率自体は同率である。問7:ロ・ニが誤り。ロ「閉鎖し」ていない、ハは台湾銀行は緊急勅令では救済できなかった。問8:難問。ロ・ハが誤り。ロはインフレ対策ではない、ハ「幣原内閣」ではなく第1次吉田茂内閣。問9:ニ・ホが誤り。ニ「オリンピック景気」は1963～64年だが「公害対策基本法」は1967年、ホ「いざなぎ景気」は1966～70年だが「OECD加盟」は1964年なのでそれぞれ誤り。問10:ハ・ニが誤り。ハは1993年、ニは1992年なので1890年代後半のバブル時代ではない。※イ「日本労働組合連合会」は正確には「日本労働組合総連合会」である。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	古代～戦後の京都	問1: やや難。ロ・ハが誤り。ロ「大きさもほぼ同じ」ではなく平安京の方が小さい、ハ「近衛大路」ではなく朱雀大路。※ニは「東京」「西京」を左京・右京の異称と判断し正文とした。問2: ホが誤り。「6年」ではなく12年。問3: ニが誤り。「制限」ではなく拡大。問4: やや難。イ・ハが誤り。イは西寺も「国営寺院」、ハ「禅宗」ではなく法華宗。問5: 難問。ロ・ニが誤り。ロ「異業種」ではなく座は同業組合、ニ「神人」ではなく供御人。※イは正文としたが、この事実を一般化できるかには疑問が残る。問6: ハが誤り。月行事の手によって自治的に運営されたので誤り。問7: 難問。イ・ホが誤り。イは江戸に本拠をおいたのは「家康」ではなく幕府、ホは大坂の説明。※ハは正文としたが、この事実は1634年のことであって恒常的なものではない点、疑問が残る。問8: やや難。ホが誤り。八坂神社は神仏分離令(1868)により祇園社が改称したもの。問9: ロ・ハが正しい。ロは1890年、ハは1894年。問10: ホが誤り。「宿場町」ではなく寺内町。	やや難
Ⅳ	原始・古代～戦後の技術革新	問1: ハが誤り。「前期」ではなく後期。問2: イ・ニが正しい。ロ・ハ「土師器」「須恵器」が逆、ホ「百済の観勒」ではなく高句麗の曇徴。問3: ロ・ホが正しい。他は塑像。問4: 難問。ロ・ニが誤り。ロ「確認されてい」ない、ニ「白磁」は多く輸入された。問5: 難問。ハ・ホが誤り。職人の技術労働は国役として賦課され、代わりに諸役免除となった(ハは誤りで、ニは正しい)。ホ「解散を命じられ」たのは近世初期ではなく19世紀の天保の改革においてなので誤り。問6: イが誤り。「ドイツ」ではなくフランス。問7: 難問。ハ・ニが正しい。ロ「日本勧業銀行」設立は1897年、「日本興業銀行」設立は1902年で条件の1890年より後になる、ホは1909年の事項なのでそれぞれ誤り。※イは株式投資そのものは拡大していると判断し誤文とした。問8: イ・ロが誤り。イ「イギリス」ではなくドイツ、ロ「漢陽鉄山」ではなく大冶鉄山。問9: やや難。ロ・ニが誤り。ロ「アメリカ」ではなくイギリス、ニ「農業部門」と「工業部門」が逆。問10: やや難。ハ・ニが正しい。イ「大半が分割」ではなく11社のみ、ロ「独占禁止法は改正され」た、ホ「1970年」ではなく1965年なのでそれぞれ誤り。	やや難

[総合コメント]

正誤問題が9割以上に達していることに注意したい。さらに2つ選ぶ形式も急増しており、受験生の負担は年々重くなる。またその内容も難化傾向が続いており、よほどみっちり学習しておかないと高得点は難しいだろう。まずは日頃からの正確さを期した丁寧な学習が正誤問題対策の大前提となる。そのうえで過去問演習を通して、用語集などを適宜利用していきたい。問題は多くは誤文選択だが、時々正文選択が紛れ込んでおり、一つ選択と二つ選択も混在しているので、解答する際には細心の注意が必要である。本学部を志すのであれば、正誤問題の入試であることを早くから意識しておこう。